



名本抄傳

九

~ 13  
3363  
9



門 八 13  
3363  
9

高麗國古蓮  
父樂父路柳

南無妙法蓮華  
日蓮



名木乃朽治人全卷九  
名木平  
目録

本大學出版部氏贈

一 松井左の初彦坂が完白駒と  
遊込

并若松井の...  
打擲の事  
打丸武官の事

留 居 野 村

己 未 年 一

申 子 年 一

名 本 山 朽 傳 入 全 卷 一 九

堀 井 庄 初 末 坂 子 鞠 と 流 石 車

兼 若 堀 井 庄 末 坂 子 鞠 と 打 擲 の 事

正 保 永 年 改 元 何 々 々 々 々 々 々

元 年 申 子 年 申 子 年 申 子 年 申 子 年 申 子 年

三 月 の 事 何 々 々 々 々 々 々 々 々

此 川 之 爲 事 何 々 々 々 々 々 々 々 々

しる目、しる父と鞠とこのこ  
ろは、  
と見、  
あねまねたま、  
しる、  
鞠と丸、  
あ、  
あ、

道あ、  
又、  
丸、  
とカ、  
と堀、  
と坂、  
折、

〜 候と目々〜 居〜  
類るげ〜 件けんの鞠まげありけ  
き〜 元もと身み經へ乳にの苦く八は〜  
とい〜 土ど屋やとりの山やま〜

り〜 河かそ 鞠まげとそれ〜  
白しろ粉こな〜 蹴くつ下した〜 糖とう〜  
年としあり〜 定さだりて世よ鞠まげと世よ乳に

小こ身み〜 心こころ定さだまり〜 ね  
〜 腹はらしやあさんとはあ〜  
奴やつ乃の半はん舌した園えん〜 身み〜 鞠まげと  
〜 信しん交こう交こうゆし〜 苦く八は〜  
号ごう〜 土ど屋やと〜 苦く八は〜  
乃の平へいと福ふく〜 中ちゆう〜 中ちゆう〜 下げ〜  
御ご性せい小こ身みの〜 母ははが〜 人ひと物もの井い

たふあつりて福登人知行  
とらちりて人の知りて  
武藏中野が沼淵武藏と  
好まひ鞠とこのんて好ま  
にうまひ身と中野の昔は  
とらちりて人の知りて  
るるるるるのけと御馬茶の

四月小立んと是夜武藏急  
らばそれふ川之たを急か  
りて鞠計とてあはれ  
しと日とがくし合戦と  
あはれ鞠と敵の首と討  
きぬとふそれと夜  
也勝紀ふあはれと人







いしきさき八やんせうあつめいけき

のころれけろく中ちゆう御ごちうふ昔あふい若わか

くこのせんせういさ八やちととうういいししるるああつつ

平へい然ぜんし平へい法ぽうたたととし

中ちゆう御ごちちううふふ昔あふい若わか

ああくくててららいい人にんくくくく海うみのの事こと

ああののいいびび下げ御ごちちううふふ昔あふい若わか

ととととららいい何なにのの意い思しひひととまますす

ととととららいい若わか八やちととまますす

打うちちいいひひそそううめめううせせららまま

いいひひんんああののいいははととらら世よ鞠まげとと

海うみのの事こといいははととららああののいいはは

ああののいいははととららああののいいははととらら

ああののいいははととららああののいいははととらら

乃平が平仗なほへらの者ものたる天あま  
意の上いの上の鞠まじと散まるるニッニッッッ踏ふみ  
こくこくししそそゆゆててかからら腹はら  
りりせせととええのの汗あせをを入いるる油あぶら  
乃平なほへらはは川がわとと赤あか白しろしてして  
りり首くび八はち咫ぢいいふふ小このの脚あしの  
私わたしのの心こころををししててにに行いくく

ああままのの心こころををししててにに行いくく  
ぬぬりり天あま意い心こころとといいふふ付つけけてて  
何なにももししもも忠ちゅう告こくししててにに行いくく  
冠かんむり小こせせとと中ちゆうににししててややららぬぬ  
白しろ眼まなこのの心こころををししててにに行いくく  
乃平なほへらとといいふふにに行いくくにに行いくく



しむわつひのさのいぬとら  
しむわつひのさのいぬとら  
しむわつひのさのいぬとら  
しむわつひのさのいぬとら  
しむわつひのさのいぬとら  
しむわつひのさのいぬとら  
しむわつひのさのいぬとら  
しむわつひのさのいぬとら  
しむわつひのさのいぬとら  
しむわつひのさのいぬとら

鞠と...  
あけつ...  
あけつ...  
あけつ...  
あけつ...  
あけつ...  
あけつ...  
あけつ...  
あけつ...  
あけつ...

んじり使ありと好 浪  
使り 比る小部 意  
對 意  
外ら矢八様も思召んあま今  
ハ申 意  
乃年と世子 好  
ふ小部 意

さんは州前在後地り  
一 意  
ふいふ部 意  
の海も 意  
ふあれらあはよとあさばあ  
ふいふ部 意  
若年のあはよとあさばあ



世々々々々々々々々々々々  
乃年々々々々々々々々々々々  
是と諸令々々々々々々々々  
の終令々々々々々々々々々々  
乃年々々々々々々々々々々々  
是と諸令々々々々々々々々  
の終令々々々々々々々々々々  
乃年々々々々々々々々々々々  
是と諸令々々々々々々々々  
の終令々々々々々々々々々々  
乃年々々々々々々々々々々々  
是と諸令々々々々々々々々  
の終令々々々々々々々々々々

世々々々々々々々々々々々  
乃年々々々々々々々々々々々  
是と諸令々々々々々々々々  
の終令々々々々々々々々々々  
乃年々々々々々々々々々々々  
是と諸令々々々々々々々々  
の終令々々々々々々々々々々  
乃年々々々々々々々々々々々  
是と諸令々々々々々々々々  
の終令々々々々々々々々々々  
乃年々々々々々々々々々々々  
是と諸令々々々々々々々々  
の終令々々々々々々々々々々  
乃年々々々々々々々々々々々  
是と諸令々々々々々々々々  
の終令々々々々々々々々々々

是那 昔ハ子ノ事ナ  
ナリレガ言ヲウレ  
是日レモ近ク合レ  
ナモアノレガ作  
非クアノ事ナ  
今ノ事ナ  
アノ事ナ

一ノ事ナ  
是日レモ近ク合レ  
ナモアノレガ作  
非クアノ事ナ  
今ノ事ナ  
アノ事ナ  
是日レモ近ク合レ  
ナモアノレガ作  
非クアノ事ナ  
今ノ事ナ  
アノ事ナ





又其業の深えん切先をて玉と  
ちせさるるあはる  
くい小威  
男下河る若のく  
る車目遠小遠るぬを  
歴の武士の嵐や  
りるのち  
定切の

んよ日浪海あの新  
又りや若公の使  
何とて建川はるや  
柳と後さるるの境  
あはるの  
の老と打連を  
ぬ又若飯若八甲斐



りては悟りしるる中節なりては  
くはぬとてあはれん中節なりては  
あはれぬの所用とせん中節なりては  
中節なりては中節なりては  
くはぬとてあはれん中節なりては  
あはれぬの所用とせん中節なりては  
中節なりては中節なりては  
くはぬとてあはれん中節なりては  
あはれぬの所用とせん中節なりては  
中節なりては中節なりては  
くはぬとてあはれん中節なりては  
あはれぬの所用とせん中節なりては  
中節なりては中節なりては  
くはぬとてあはれん中節なりては  
あはれぬの所用とせん中節なりては

中節なりては中節なりては  
くはぬとてあはれん中節なりては  
あはれぬの所用とせん中節なりては  
中節なりては中節なりては  
くはぬとてあはれん中節なりては  
あはれぬの所用とせん中節なりては  
中節なりては中節なりては  
くはぬとてあはれん中節なりては  
あはれぬの所用とせん中節なりては  
中節なりては中節なりては  
くはぬとてあはれん中節なりては  
あはれぬの所用とせん中節なりては  
中節なりては中節なりては  
くはぬとてあはれん中節なりては  
あはれぬの所用とせん中節なりては

ゆのてイヤ肝も洗きはまうさ  
迹も洗きもははるる  
おのれにはおのれさ  
たごえとぬるせよははるる  
一本洗胸板も洗きも  
差替もせよははるる  
くまもははるる

一本洗物も洗きも  
つらつらつらの胸板の洗  
いしつらつらの首の骨の用  
いしつらつらと洗きも  
さつらつらつらつらつら  
さつらつらつらつらつら  
洗きも洗きも洗きも

白波しらなみのうらと二人守馬しうま團だん光みつ  
まらるまらる計けいににいぬいぬの海うみ  
合あ生せいにに秘ひ海かいととそそ  
波なみののいいのの流りゅうのの蓮れん人にんあり  
若わか八はち虎こののいいののううととああののううが  
おおののううのの新しんのの物もののの誓ちかいいととああののいいと

ししののううののいいののううととああののいいと  
ととああののいいののううととああののいいと  
かかののううのの新しんのの物もののの誓ちかいいととああののいいと  
若わか八はちののううののいいののううととああののいいと  
ししののううののいいののううととああののいいと  
ととああののいいののううととああののいいと  
かかののううのの新しんのの物もののの誓ちかいいととああののいいと  
若わか八はちののううののいいののううととああののいいと  
ししののううののいいののううととああののいいと  
ととああののいいののううととああののいいと  
かかののううのの新しんのの物もののの誓ちかいいととああののいいと

幼見の事一の働はさきし一若八が  
あまがじし此も並小あせしれ  
とあ一思ねさく一叶ハぬぬ中  
一あ一叶さぬとほち  
し一近矢くれがたぼる  
若八が首川提此と一も  
公儀の由は並小取んと目付元

ま一海くれが提此の上  
穿合中付一き一と一あ  
小あ乃あま事一死罪罪く受定り  
一あ一この情酒院上人  
とあ多中書及一あ一此情作  
か一情酒院上人あ年が留り親  
とあ一このいあ事一あ

船ふねと申すは平ひらと書かき流ながし連つ田た  
アいおらぬとやんんとくくどども常じょう  
平ひら文ぶん十じゅう飛ひ江え江え江え江え  
情じやう施せ院いんの境さかい内うち小こ舟ふね乃なりままささるる所ところ  
同どう字じおおりりししむむるる名なひひ己こに  
毛けのの骨ほね氣きの若わかしの  
どどのの集あつまりまりのの終つひ小こ舟ふね達たちの

以もてて後のち小こ  
改か名なししてて情じやう施せ院いん長ながきき所ところと  
いいひひししるる

# 引船ひねふねの底そこなるなる事ことやや如ごとくごとくくのの岸きし

名木な目め折し折し傳でん人じん全ぜん卷くわん九く終つひ

